

# 市政報告会 質疑応答

9月29日から11月19日にかけて、市制施行以来15回目の「市政報告会」を開き、市内11会場で659人の参加がありました。

ことは、市の財政状況をはじめ、新型コロナウイルス感染症の対応、教育委員会の取り組みなどを報告。阿蘇医療センター院長が全会場に出席、医療センターの現況、新型コロナウイルス感染症に関する、詳細な説明を行いました。

各会場からの意見は今後の市政運営に生かしていきます。



和田副市長



阿南教育長



阿蘇医療センター 甲斐院長



佐藤市長

## 乙姫地区

**Q** 防災について、市で「自助・共助」の組織を作っている行政区等があれば教えてほしい。

**A** 自主防災組織は区長を中心に組織されており、117の行政区のうち4～5行政区が未結成であるが、ほぼ100%に近い状態で組織化されている。ただし、地域によって若い人が多い地域もあればご年配の人が多い地域もある。自主防災組織の活動はさまざまであるが、地域は地域としてできることをやっていたきたい。いきなりあれもこれも地域でお願いするのは難しいため、それぞれできる活動を繰り返しながら地域の防災力を上げていただきたい。

地域によっては初寄りの時に消防署を呼んで救急救命の訓練や消火器の使い方などの訓練をしているところもある。実際、台風10号においても自主防災組織で避難所を運営したところもある。熊本地震の時も自分たちの地区で相当な数

の人へ炊き出しを提供した地域もある。

大きな災害になればなるほど「公助」は遅れる。まずは「自助」自分の命は自分で守る、自分の家族は自分たちで守る、それが地域で助け合う「共助」につながる。

事前に懐中電灯等をそろえる、食べ物を準備するなどの呼びかけをそれぞれ区の中でやっていたたく、それも自主防災組織の活動の一つになると考えている。【総務部長】

**Q** 空き家バンクに登録されないような古びた空き家への対応は。

**A** 有効活用が可能な空き家バンク制度の中でより有効な活用をお願いしている。しかし、空き家というより「荒廃家屋」で、いつ倒壊してもおかしくない家屋もある。阿蘇市のみならず全国的に社会問題になっている。

現在、そのような情報をお寄せいただくと市で管理者・所有者に直接、写真をつけて「危険な状況となっている」

「近隣の人も非常に心配しているので所有者として対応をお願いする」「民法上、事故が起きれば管理者責任として賠償問題にもつながりかねないので、まずは現地を確認していただき対応をお願いする」といった内容の文書を送付している。

大都市では、行政で強制的に取壊・処分・撤去を行っているところもある。最終的には代金を所有者から徴収することになるが、あくまで個人の財産であるため直接的に対応できないのが現状である。【総務部長】

## 黒川・役大原地区

**Q** 乗合タクシーについて、宮地から坊中まで利用できるのか。

**A** 宮地、坊中間は、JRや路線バスといった公共交通があるので利用できない。利用できる区間はあらかじめ決まっているので、詳しくは市役所までお尋ねしていただきたい。【政策防災課長】

**Q** 西町から阿蘇医療センターへの通院に乗り合いタクシーを利用できるようなしてほしい。

**A** 乗合タクシーは、公共交通機関が運行されていない路線を補完する目的で導入しているもの。この場合は路線バス等の公共交通機関を利用していただきたい。

【政策防災課長】

狩尾地区

**Q** 阿蘇温泉病院の産科がなくなった。阿蘇医療センターに産科を設置してほしい。

**A** お気持ちはよく分かる。阿蘇医療センターの建設時に医師会と話し合いを行った際、阿蘇医療センターに産婦人科を作ってほしいという意見もあったが、民間を圧迫することになるので、阿蘇温泉病院が責任をもって担っていただくことになった。

また、県選出の国会議員が

少子化対策担当大臣でもあるため、そのことを直接話している。大臣からは全国的にもそういうところがあるから、そこを改善する取り組みをやっていきましょうとのことであった。大臣とも連絡をとりながら、一日も早く改善できるように頑張っていく。

【市長】

**A** 阿蘇温泉病院の産科は、廃止ではなく休止と聞いている。現在助産師が2人しかおらず、安全な分娩のためには4名から5名の助産師が必要であり、確保のため温泉病院も精一杯努力をしていると聞いている。病院も社会的責任を認識しており、市も県とともに大学や助産師協会に働きかけ、助産師確保に向け動いている状況である。

【市民部長】

阿蘇温泉病院の産科についての質問は他の地区でも多数いただきました。

**Q** 研修医が阿蘇医療センターを選ぶ理由として、衣食住等の待遇以上に、研



阿蘇医療センター

修期間にどれだけ技術を身につけることができるかということを重視していると考えがどう思うか。また、ビジネス的な考えだけでなく、地域に必要な病院として考えてほしい。

**A** 研修医に関しては、当院で研修することで知識と情報が多く与えられる。また、研修の内容が非常に良いということが伝わって増えている。実はもっと多くの応募があつており抽選している。その中で将来、何人かの先生に残っていただければと期

待している。自治体病院が担う不採算部門であるけれども地域に根差した必要な地域医療として提供すべきものと考えている。

ぜひこれからも応援していただき、良い病院を作りたいと思う。【阿蘇医療センター院長】

永水・跡ヶ瀬・的石地区

**Q** 昨年度黒川で河川掘削のための測量をしていたと思うが、その後掘削は行ったのか。遊水地ができるまでには数年かかると思う。車帰橋から跡ヶ瀬橋までの河川掘削の今後の方針は。

**A** 黒川下流域の治水対策は大変重要なことと考えている。跡ヶ瀬からの的石地区は昨年度に川底を測量している。今年の梅雨前に1回大正橋の掘削を行った。今後も追加で行っていききたい。遊水地完成までには何年もかかると思う。予算を確保して年に1回は掘削を行っていききたい。【県振興局土木部】

**Q** スクールバスの運用は通学距離が4キロ以上となっているが、過疎地、豪雪など地域の事情に応じて柔軟に対応してほしい。

**A** スクールバスに関しては、小学校4キロ、中学校6キロの文科省の通学基準を採用している。本市でも学校統合により、通学環境の向上を図るとしており、3キロ緩和要件もある。学校規模適正化基本計画が終了し、改めて検証していくことになると思う。

他の学校も含め、子どもの安心安全のために地域の人にも見守りをお願いしており、今後も子どもの安全には力を入れていく。【教育長】



スクールバス

波野地区

**Q** 高規格道路が道の駅 神楽苑の目の前を通る予定だが、神楽苑には豊富な農産物が販売されている。より波野地区を発展させるためには、インターチェンジを含め高規格道路を最大限に活かしてほしい。

**A** 道の駅神楽苑については、高冷地野菜や蕎麦などでたいへん賑わいがあることは承知している。今後も地域振興のために頑張っていきたい。

**Q** インターチェンジは道の駅の前にできる計画である。高規格道路は高速道路と違ってサービスエリアがないので、道の駅がサービスエリアの代わりになり、地域振興にもなるものと期待している。【経済部長】

**Q** 波野地区の農道や市道は大変傷んでいる。ここ2、3年で全面改修が必要などところが多いと思う。何らかの事業をもってきて、全面的な改修をしてほしい。

**A** 道路に関しては半年で100件ほどの要望が上がっている。応急的な対応はしているが、本格的な修繕までは至っていない。また、区長要望があったところについては、立ち合いのもと現地を確認している。今後、有利な補助事業を見つけて対応していきたい。【土木部長】

**Q** 阿蘇光インターネットの利用料金は高い。少しでも安くしてほしい。

**A** 利用料金は、消費税増税前に4600円であったが、その後は消費税増税にもかかわらず4598円としており、実質の値下げしている。

**Q** また、阿蘇インターネットは平成23年の整備であるが、その後インターネットが大きく普及し、家庭でのWi-Fi利用も増えているため、回線の増設等設備投資が必要となってきており、機器の更新も想定される。値下げができないのが現状である。【総務部長】

**Q** 国道57号北側復旧ルートの開通によって、大津町や熊本市の病院に通院しやすくなるとの声も聞くが、わざわざ遠方まで行かなくても阿蘇医療センターで対応可能であることをもっと積極的にアピールしてほしい。

**A** アクセスが改善され、遠方まで患者さんが行かずとも地元の病院に一人でも多く来ていただけるよう努力していきたい。

**Q** 阿蘇医療センターが出来る前の阿蘇中央病院時代は、南阿蘇村から25件ほどの救急搬送があつていたが、現在は約200件の市外からの救急搬送があつている。また、逆に合志市や大津町から阿蘇医療センターに来てもらえるような仕組みができないかを考えているところ。【阿蘇医療センター院長】

**Q** 新型コロナウイルスの影響で全国的に米の消費が減っている。飼料用

適正なのか。

**Q** 稲が増え、地方の農業はこのまま衰退するといわれており、地域の活力が心配だ。学校給食は週3回が輸入小麦のパン食であるが、外国産小麦の安全性を懸念しているところ。週5回の米食に変更し、地産地消と地域振興を図ってほしい。

**A** 米食への変更は子どもや保護者の気持ちも十分に伺って慎重に検討したい。【教育部長】

**Q** 農業振興のためにコメを活用することはいいことである。食育は教育委員会ですっかりやってほしい。教育委員会とも話をしながら、何ができるか検討していきたい。【市長】



米食

**Q** 山田体育館には照明、情報の設備がなく、簡易的なベッド、隔離する場所等もないが、避難場所として

**A** コロナ禍もあり3か所の避難場所を準備した。区長会の協力も得て自主避難所も活用するなど、コロナ禍の中での避難所運営には非常に気を遣っている。

**Q** 避難場所は避難所の他、安全な知人・親戚宅、また車中避難も想定に入れていただきたい。今後より多くの方が安全に避難できるように対応したい。なお、間仕切り、簡易ベッドも準備中である。【総務部長】

**Q** 小倉遊水地への流入状況は。

**A** 黒川の水位が上がりに、1回遊水地に水が入っている。遊水地の中の道路は堤防同様高く作っており、満水に達するまでは通ることができ。遊水地内の農地や農道は浸水の恐れがあるので、流入しそうになったら通行止めとするために職員でパトロールをしている。【県振興局土木部】

山田地区

内牧地区

**Q** 戦場ヶ橋はいつ開通か。北側に通学路があり、大型ダンプが通っている。歩道にU字溝が開いたまま、ふたが外れていたりして、子どもたちは一度車道に出るなければならない、大変迷惑。

**A** 橋の開通について現時点で明確な時期はお示しできないが、橋梁前後の取付け部のかさ上げ工事や、舗装工事、交通安全施設工事などに加え、宮原川の黒橋の架け替え工事も残っている。大変ご迷惑をかけているが、一日も早い開通に向けて取り組んでいくので、ご理解いただきたい。

2点目については、現地を確認し対応させていただきたい。【県振興局土木部】



戦場ヶ橋

**Q** 泉大橋の河川カメラについて、数値のラインがはっきり見えるようにしてほしい。他のところは暗くて見えない。全く見えないこともあるので改善してほしい。

**A** ご意見を踏まえ、改善に努めたい。カメラに照明がつくように改良等も進めている。【県振興局土木部】

**Q** 旧熊本市教育キャンプ場の建物の周辺の木を切るといつていたが、いつ、どうやってやるのか。

テント等多くものがある。紛失する可能性もあるのでも中に入れたりした方がいい。機械もいっぱいあり、もつたない。

**A** 木の伐採の件は、確認のうえ回答したい。

キャンプ場は一部がレッドゾーンにかかっており、活用について、解決策を見いだせない状況である。何かしら回答が出るよう考えていきたい。ご意見はごもつともなので、管理の在り方も含めて考えていきたい。【教育部長】

中通地区

**Q** 集落営農法人化の状況は。市の今後の方針を聞きたい。

**A** 集落営農法人化は平成27年から始まり、昨年までに6つの集落営農組織が法人化している。本年度は、現在4つの地区が法人化に向け、協議を進めており、本年度内に法人化の予定である。市では、基幹産業である農業を将来にわたり維持・継続していくためにそれぞれの地域で担い手を確保すること、地域の農地の受け皿を整備すること、また、農地の集約化を図ることを関係機関と連携して推進している。人・農地プラン策定で集落の話し合いにも入り、推進することとしている。

将来的には、旧小学校区単位で法人を大きくしていくことも進めていかないといいけない。今後、取り組みが進んでいない地区にも法人化に関する資料配布や積極的な説明等進めていきたい。【経済部長】

**Q** 学校のICT整備に伴う児童生徒のネット利用による犯罪被害防止について、家庭への周知や啓発等はどうなっているのか。

**A** 学校で準備しているタブレットはインターネットの閲覧についてフィッシングを行い、有害サイト等に接続できないよう設定している。家庭に対しては学校での研修や啓発等といった取り組みを行っていききたい。保護者と一緒になり、有害サイトの被害等に巻き込まれないように取り組みたい。【教育長】

坂梨地区

**Q** 最近、登下校時に声掛け事案などが発生しており、たいへん心配している。坂梨地区までの通学路は人通りも少ない場所が多いため、地域の皆さんに登下校時の見守り活動への協力をお願いしたい。

**A** 登下校時の安心安全はどの学校でも課題である。各学校だけでは対応しきれない部分があるので、地域全体で見守りしていただくことは大変ありがたい。私からもぜひご協力をお願いしたい。【教育長】

**Q** 先日医療センターを受診した際に路線バスを見ていたところ、乗降客がまったくないかった。もっと小さなワゴンタイプの車両でもいいのでは。また、コミュニティバスを導入してはどうか。



路線バス

